

西郷どんとさるく 温故維新マップ

ふる故きを温ねて 維新を知る

庄内編

西郷どん展
庄内に愛された
開催報告

今回の特別展は江戸幕府崩壊前後の庄内藩と薩摩藩の歴史を中心に庄内が保有する貴重な資料を約30点、里帰り展として紹介しました。

平成30年
とき：11月16日(金)～12月31日(月)
ところ：鹿児島市 維新ふるさと館

明治維新150周年記念 歴史シンポジウム開催

12月2日(日)サンエールかごしまで、「庄内と薩摩の交流」をテーマにシンポジウムを開催し、366名の参加がありました。明治維新150周年を迎えた昨年、明治維新に何を学び、何を伝えていくかを考える契機として、「明治維新150周年記念シンポジウム」を西郷南洲顕彰館と連携し、2回開催しました。

今回は2部構成で、第1部では鶴岡からお迎えした酒井家18代当主、酒井忠久氏に「庄内でなぜ南洲翁は愛されているのか」をテーマに基調講演、薩摩との交流の経緯と意義を語っていただきました。その後、当館職員も加わりトークショーで、このテーマについて深めました。

第2部では、東京大学史料編纂所教授山本博文氏に「江戸幕府崩壊前後の庄内と薩摩」をテーマに基調講演をしていたとき、酒井氏と西郷南洲顕彰館徳永和喜館長を交え、トークショーを行い、このテーマについて深めました。

参加者の方からは、「どちらの基調講演も、歴史に疎い私にも分かりやすく、聞きやすかったです」、「基調講演の時間が短く感じました」、「今回の構成は面白く、飽きが来なかった」と感想をいただきました。



INFORMATION

温故地新

ふる故きを温ね、元を新たに。

■トリップアドバイザーの5年連続エクセレンス認証

世界最大の旅行口コミサイト「トリップアドバイザー」から5年連続「エクセレンス認証」という高い評価を受けました。これは旅行者の声に基づいて評価の高い施設に贈られる賞で、当館は2014年から5年連続の受賞となりました。

明治維新150周年、大河ドラマ「西郷どん」の放送の記念の年に、本賞を受賞できたことは大変光栄で、励みになります。今年もお客様の声を大事にしながら、「明治維新を分かりやすく、楽しく」をモットーに館運営に取り組みます。

■鹿児島県小学校社会科作品コンクール 好評

夏休みに鹿児島県内の小学生が取り組んだ社会科自由研究の優秀作品を展示する「鹿児島県小学校社会科作品コンクール」の作品展を開催しました。

薩摩切子や鹿児島の食、西南戦争などをテーマに100ページにもおよぶ作品もありました。観覧者アンケートでも「どの作品もすばらしい」「小学生でもこんな立派な研究ができるのだと驚きました」「自分の子どもの作品のどのようなところが足りなかったのか、来年度の参考になりました」との声がありました。

当館では夏休み期間、小中学生向けに歴史の質問を受け付ける日を設けています。ぜひご活用ください。

▲2ヶ月かけてまとめた作品もありました

▲観光客も展示作品の多さにビックリ

■西郷どん!まるごと絵本原画展

初笑いを維新ふるさと館でいかがですか。1月19日(土)・20日(日)は当館の維新体感ホールで新春寄席「西郷と久光」を開催。創作落語と歴史トークショードで初笑い。ゲストに歴史家の加来耕三氏と落語家の桂竹丸師匠を迎えます。また、豪華お年玉抽選会も行います。お席に限りがございます。入場券のお求めはお早めに。

愛らしい表情の西郷さんポストカードも現在好評発売中です。お土産にいかがでしょうか。

新商品 「天保年間城下絵図」

これまで要望の多かった城下絵図を持ち運び可能なサイズで商品化しました。鹿児島の歴史を感じることができ、まち歩きにもぴったりの城下絵図となっています。当館限定販売の先着100本となります。ご購入はお早めに。

■価格：1,080円(税込)



西郷を偉大ならしめた 庄内のシンボル「月山」

月山(山形県鶴岡市)

維新歩

一面雪に覆われ、純白で神秘的な景観を漂わせる「月山」は、標高1,984mの半円形の火山で、出羽三山の一つである。それ故月山は、この地に住む人々の雄々しさと優しさを併せ持つ庄内のシンボルであり、その存在感は言葉では言い表せないほど大きい。

「庄内」とは、もともと肥沃な地域を表す言葉であり、農作物の豊かな地域のことをいう。庄内藩(山形県鶴岡市)はその名の通り、現在も「庄内平野」を抱える全国有数の肥沃な地域として知られています。

広大な庄内平野をふとろぐ月山の頂上には、農耕の神である「月読の命」を祀る「月山神社」も建てられており、薩摩人が誇る桜島と同様、人々の勇気や郷愁を醸し出すよりどころとなっている。奇しくも庄内と同様、桜島の横山地区にも「月読の命」を祀る「月讀神社」がある。「桜島」という名称は、月読の命と同様ここに祀られている「木花咲耶姫」にちなんで付けられたとの説もある。

幕末に17万石を擁した庄内藩主酒井忠篤公(16歳)らは、戊辰戦争の際、新政府軍に会津藩よりも遅くまで抵抗したことから、切腹覚悟で降服式に臨んだが、西郷の命により黒田清隆参謀は寛大な措置を言い渡した。

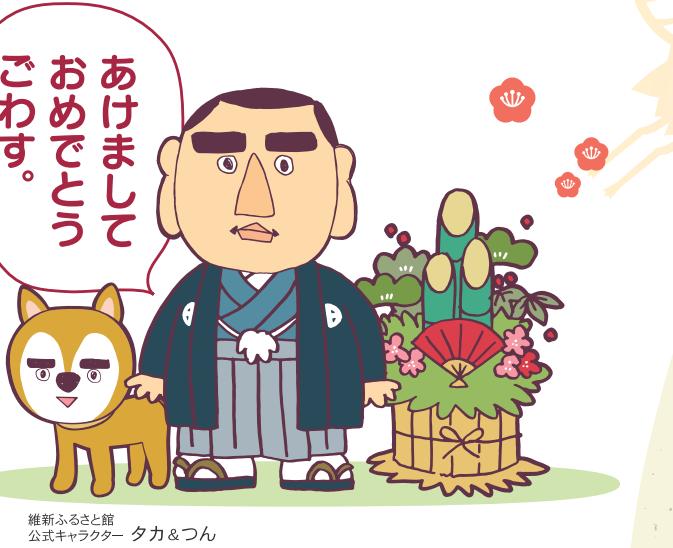
これに感動した庄内藩は明治3年、藩主以下76名が山形から500里(2,000km)の道のりを、約3ヶ月かけて鹿児島を訪れ見聞・研修した。さらにその後も中老の菅実秀(臥牛)や石川静正など、庄内の人々の鹿児島訪問は明治8年まで続いた。

庄内の人々は帰国後、こうした西郷の教えを「南洲翁遺訓」としてまとめ、西郷が西南戦争の賊名を解かれた翌年(明治23年)、これを発刊、全国を行脚し頒布して回った。西郷の教えとその偉大さが「徳の交わり」として今に語り継がれてきたのは、かつて敵として最後まで戦った庄内藩の人々の誠実で勇気ある行動、さらには高い学識と度量の大きさに由来すると言つても過言ではない。

(文/福田賢治維新ふるさと館特別顧問)

維新伝心

維新の心を伝えます



あけましておめでとうございます。維新ふるさと館は、今年も「維新伝心」。維新の心を分かりやすく、楽しんで伝えています。

今年は鹿児島市と鶴岡市が兄弟都市盟約を結んで50周年。今回はこれにちなみ作成した「鹿児島市・鶴岡市盟約50周年記念穴埋めクイズ」をお楽しみください。鹿児島との交流を伝える資料を展示する施設名等をヒントにして解答してください。

クイズ正解者の中から20名様に抽選で素敵な景品をプレゼント。皆さんのご応募、お待ちしています。

答え

A	B	C	D	E	F	G
---	---	---	---	---	---	---

鶴岡市

【応募方法】

- ①FAXかハガキで応募 ▶ ②答え、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号を記入(記入漏れは無効) ▶ ③維新ふるさと館宛に送る

【応募締切】

平成31年1月31日(木)必着

【送り先・問い合わせ】

〒892-0846 鹿児島市加治屋町23-1

鹿児島市維新ふるさと館

TEL 099-239-7700 / FAX 099-239-7800

※応募いただいた方の個人情報は、景品の抽選・発送のみに使用いたします。

「南洲翁遺訓」のふるさと「庄内」を歩く

鶴岡市は山形県庄内地方の南部に位置し、米どころ庄内平野が広がります。

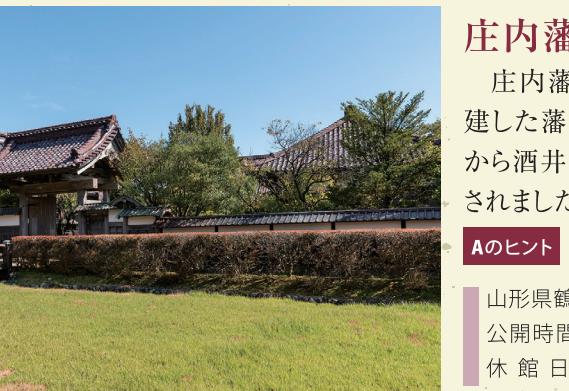
庄内藩の城下町であった同市の市街地には、西郷に関連する資料等を展示・紹介する施設がたくさん残っています。



□□□□E□□

幕末から明治にかけ活躍し、西郷隆盛とも親交があつた旧庄内藩家老・菅実秀ゆかりの日本庭園。座敷では南洲翁遺訓の編纂が行われました。

山形県鶴岡市家中新町2-21 ☎0235-25-0925
公開期間:毎年4/15~11/30の月・火・金曜日のみ(不定休)
公開時間:10時~15時
入園料:無料
※見学は前日までに要予約。個人宅のため団体の見学不可

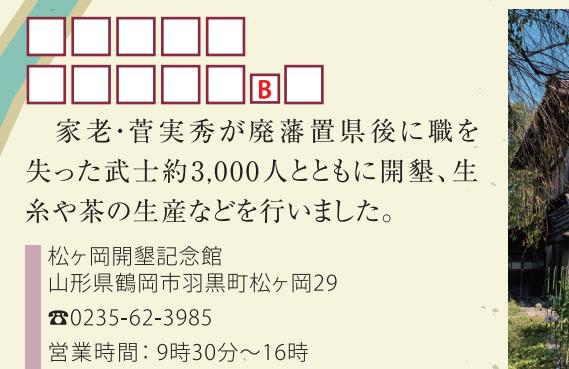


庄内藩校 致道館

庄内藩酒井家第9代酒井忠徳が1805(文化2)年に創建した藩校。ここで新政府軍参謀□□□A□□□□から酒井□D□□へ、戊辰戦争の降伏条件が言い渡されました。

Aのヒント 鹿児島城下の新屋敷生まれ。第2代総理大臣。

山形県鶴岡市馬場町11-45 ☎0235-23-4672
公開時間:9時~16時30分
休館日:水曜日、12/29~1/3



□□□□□□B□

家老・菅実秀が廃藩置県後に職を失った武士約3,000人とともに開墾、生糸や茶の生産などを行いました。

松ヶ岡開墾記念館
山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡29
☎0235-62-3985
営業時間:9時30分~16時
休館日:月曜日、11月中旬~3月



□□C□□□□□□

酒井家の御隠殿や旧役所などを利用した博物館。西南戦争で西郷とともに戦い、若くして亡くなった庄内藩士伴兼之と榎原政治の逸話や西郷隆盛と庄内の関係が展示・紹介されています。

山形県酒田市飯森山二丁目304-10
☎0234-31-2364
開館時間:9時~16時
休館日:日・月曜日
入館料:無料

□□G□□□□□□□□

西郷隆盛の遺徳をたたえ、昭和51年に創建。南洲翁に関する真筆の遺墨、遺品などを数多く所蔵・展示しています。鹿児島市武の西郷屋敷跡にある「F□□□□□□□」像と同じものがあります。

山形県酒田市飯森山二丁目304-10
☎0234-31-2364
開館時間:9時~16時
休館日:日・月曜日
入館料:無料

今回の
イチオシ

西郷隆盛銅像建設関連資料(パネル)

明治22(1889)年2月大日本帝国憲法発布に伴う大赦で罪を許され、正三位を追贈されたことを記念して、西郷隆盛の銅像建立の話が吉井友実ら鹿児島県出身者を中心に起きました。そこで、22年12月、建設資金を募るために一般に配布されたのが「紀念銅像建設趣意書」**1**です。発起人には、吉井友実・樺山資紀・黒田清隆・川村純義など鹿児島県出身者のほか、岩倉具視・三条実美はじめ伊藤博文・大隈重信・勝安房など公家や明治の元勲、旧庄内藩主酒井忠篤など51人、そのほかに委員として樺山資紀、三矢藤太郎(庄内)など18人が名を連ねています。両方に記名のある樺山資紀が建設委員長を務めたものと思われます。

「遺像建設並募金手続」の最初に「遺像は上野公園地内に、数丈(1丈=約3m)の高さに石をたたみ、その上に翁の乗馬した銅像を安置する」と書かれており、この時点では西郷銅像は、上野公園に乗馬姿で建立することが予定されていたようです。

一方、9月19日付樺山資紀からの「酒井忠篤宛書簡」**2**では、宮内省から500円の下賜金があったことに続けて「建設場所が皇上(皇居)正門外に許可されていたが、都合により取り消され上野公園地内に変更になった」と記されています。これは、馬上姿の銅像が着流しに替わったと同じように、西郷への反感を持つ政治家がまだ多かったという事情があったものと考えられます。

銅像制作に当たった高村光雲の三男豊周によると、「西郷さんの銅像ははじめ陸軍大将の正装で木造原型をつくったが、当時ある重臣からクレームがついて急に模様替えすることになったと父から聞いた」と述べています。そこで、いろいろ相談して、大山巌の発案により「一切の名利を捨てて山で兎狩りをした飾りのない姿」にすることとなったようです。しかし、そのことでむしろ親しみのある西郷さんのイメージが定着したことは、結果としてはよかつたのかもしれません。

「南洲翁遺訓」配布先関連資料(パネル)

明治22(1889)年2月、西郷隆盛の歿名が解かれると、庄内では生前西郷から教わった事柄を集めて遺訓集を編纂することになりました。西郷と庄内の関わりは戊辰戦争後の明治3(1870)年8月、旧藩主忠篤が旧家臣の大塚盛魏・長沢惟和に親書を託して鹿児島の島津忠義・西郷隆盛に親交を懇願したことに始まります。11月には、藩主以下76名が来鹿、翌年3月まで滞在しました。西郷下野後の明治7(1874)年1月には、旧中老酒井了恒が伊藤孝継や栗田元輔とともに訪れ、参議辞職の事情を聞いています。同年11月には旧家臣の赤沢経言・三矢藤太郎が2ヶ月滞在、明治8(1875)年5月には、菅実秀が松平甚三郎、石川静正ら6人と訪問して20日間ほど滞在、12月には伊藤孝継が来訪して、松ヶ岡開墾場産の茶に茶名を請うとともに、同行した伴兼之・樺原政治を幼年学校に特別入学させてもらいました。後にこの2人は、西南戦争で西郷とともに戦死しています。

このような濃密な関係を得た庄内では、菅実秀の指導によって、赤沢経言と三矢藤太郎が担当となって「南洲翁遺訓」を編纂して、翌明治23(1890)年1月上梓、千部を印刷しました。忠篤は4月に6人の旧藩士2人ずつに、全国を行脚させ配布させました。中国・九州を担当した三矢藤太郎と朝岡良高は、鹿児島で13人に配布しましたが、そのときの配布先がこのパネルに記されています。

